

クラス	Q305	担当教員	大饗 広之
テーマ	現代青年の心理 & 心理療法的アプローチ		
著書・論文 研究課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「豹変する心」の現象学—精神科臨床の現場から— (勁草書房)</li> <li>◆ 「境界性人格障害における時間継起と他者との関係性」精神神経誌 101、33—55</li> <li>◆ 「分裂病者との対話—内的体験に先立って語られること」精神神経誌 102、543—559</li> <li>◆ 「二つの離人症」精神神経誌 103、411—425</li> </ul>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：青年期、アイデンティティ、解離、トラウマ			
<p><b>目的、内容、方法：</b></p> <p>主に思春期・青年期の心は今どうなっているのか、そしていったい心の臨床家はそこにどうやってアプローチしているのか、あるいは心理臨床は今後どうなっていけばよいのかなどといったテーマが中心となります。ポストモダンの時代、すでにアイデンティティという概念の賞味期限は切れており、ふつうと異常のあいだの境界線もみえなくなっています。対人関係における課題も変化しており、青年期における生きづらさも以前とは大きく異なるものになっていると考えなければなりません。ゼミでは専門家へのインタビューや解離やトラウマ、アスペルガー傾向、摂食障害の尺度などの使用、あるいは半構造化面接などを試み、その周辺にある身近な課題にさまざまな側面から取り組んでいきます。</p>			
<p><b>授業計画等：</b></p> <p>2年というのは一つの研究課題に取り組むには短すぎる期間です。このゼミでは、メンバーの自主性を重んじ、早い段階から討論・発表を繰り返しながら、それぞれが自分のテーマを探し、練り上げていきます。一定の形式といったものはありませんが、興味があることにそれぞれが取り組んでいただき、卒業論文を仕上げることを目標にします。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>ゼミの展開は討論中心で、学生の自主性に委ねられるところが大きいので、はじめからテーマが決めることはありませんが、少なくともいろんなことに疑問を抱き、積極的に議論に参加していく姿勢がのぞまれます。そして自分の抱いた疑問に執念深くコミットして行って欲しいと思います。</p>			